

汽
車
の
乗
違

020357-000-7

特16-460

汽車の乗違

井深 梶之助/訳

M21

ABI-0164





(一)

瀛車の乗違

頃日ニウヨルクよりポストン行の瀛車に乗りて旅行せし
 其途次頗る乗客の注意を惹起したる一事出来たり予と同車
 の乗客中に一人の容貌賤しからざる壯年あり發車して數里が
 間辭々として睡眠せるもの如くなりしが其間車掌は屢々其
 人の前を往來しつゝ其睡眠を妨げざりしが終に止を得ず之を
 呼起して貴君の切符はと問ふ彼の壯年は濫々切符は此にと差
 出ければ貴君は何處へ往給ふやと問ふ我は某處へ往くなりと
 て大約百里餘全く方角違の町を云ふ車掌曰其は大なる間違な
 り貴君は瀛車に乗違られたり此はポストンへ行く瀛車なりと
 聞て壯年は大に驚き此は大變なり我ハ某處行の切符を買ひ荷
 物も某處へ宛て差出し而して此瀛車に乗たる時には確に間違
 なき事と思ひたり車掌曰何と申しても乗違に相違なし此はポ



(二)

ストーン行の瀛車なり壯年日然らば我は如何にせば可ならんや
 我は何時には必ず某處に至るべき約束あり此約束を違んよりは寧一千圓を出すべきに
 此旅客は瀛車に乗違へ發車して既に數十里を走りたり左れば
 時間を限て約束をなし其約束に違ふ時は大損耗に逢ふ商人の
 身として今心配なるは奇むに足らず今は外に致方なし次の停
 車場にて下車し而して元へ歸るの外なしと車掌が告たる時彼
 の旅客は直に其決心を爲したり
 是に於て予思らく
 (第一)然れば世には全く瀛車の乗違又方角違の旅行といふはあ
 る事なり然れば未來永遠の旅行にも亦此事なしと云ふ可らず
 譬へば此に甲乙二人あり未來の世の事に就て全くその主義方
 向目的冀望を異にすることあらん一人は常に神に祈り神を敬

(三)

ひ不義罪惡を惡み嫌ひキリストを無二の救主と頼み己の生涯
 をばキリストの祭壇に獻げたる忠義の犠牲と做し他の一人は
 絶て神に祈らず私慾を縱にしキリストの救を放棄し神の教よ
 りは自己の智慧に依頼し其心に於ても行に於ても此世の快樂
 を取るを以て主義とすることあらん此二人は決して同一の道
 を旅する者と云ふべからず一人は天國の道を行く者なれども
 一人は然らず
 (第二)縱令人は自ら欺ざるも決して其方向を誤らざる證據と爲
 がたし彼の旅客の如きも眞實に己は正き瀛車に乘たりと確信
 して疑いざりしなり然れども其實間違たることは更に變らざ
 りき世人或は云ふ宗教の事は人若し自ら欺かず自ら眞と思ふ
 所をだに信ずれば如何なることを信ずるとも妨なしと而して
 思慮あさき輩は此の如き言の爲に大事を誤り邪路に迷入りて

(四)

終に永苦に陥るもの幾千萬人なるを知らず憫然至極の事なり
 若し其道を誤れる者ならば眞面目なればなるほど結句其人の
 不爲なり彼の壯年の旅客をして全く方角違の瀛車に乗て更に
 疑ふ所なく平氣ならしめたる者は何ぞや是れ即ち我が乗るべ
 き正しき瀛車なりとの彼が確信の所爲に外ならざる也
 (第三)道の大本を誤る時は縦令故意に出ずとも其成果故意より
 悪を行ひたる小異ならず神は人の自ら爲せる禍を救はず彼の
 旅客もし約束の時間を違ひたらば違約の罪は到底免るべから
 ず實は間違なりと云ふて言逃るべからず此の如き間違はある
 べからざる筈なり未だ出發せざる先に能く問質して其正き瀛
 車なるや否やを突止むべき筈なり未來永遠の旅行に於けるも
 亦此の如し人若し大悪を行ひ又は大罪を犯さば世未審判の日
 に至て此の全く間違なりといふも無益なり神は凡て生命を求

(五)

る者の爲ふりの道を明白に示し給へり而して汝曹の召れし事
 と選れし事を堅固せよと命じ給ふ也
 (第四)道を誤る者は早晚必らず其誤謬を發見せざるを得ず彼等
 ハ決して其誤謬を固守して正理となすこと能はず彼の旅客の
 ごとく縦令一旦方向を誤るも目を醒して元に立歸る者は福な
 り而して最熱心に其誤謬を告る者こそこの人の眞の良友なれ
 忠信なる基督教の教師又は篤信なる妻母友人等が未だ罪を悔
 ざる人にその危険を告るは此上もなき慈善の行なり彼等の熟
 眠を醒すには或は不愉快なる事あらん或は其忿怒遺恨を惹起
 すことあらん然れども其誤は告ざるべからず車掌もし彼の
 旅客が瀛車に乗違たるを知つゝ其熟睡するに任せて其誤を告
 げず如何人之を何と云はん決して之を仁者とは云はざるべし
 使徒パウロは夜も晝も斷ず涙を流して各人を勧めたりとあり

(六)

(第五)人若し己の誤謬を發見せば我は如何すべきやと問ふべきなり是れ智者の所爲なり是非何とか爲さるべからず其儘ふては在べからず進行の程度神速ならば尙一層神速に決斷せざるべからず此の如き困難の場合に至ては眞實心底より我は如何すべけんやと問ふべきなり

(第六)此問の正き答は即ち車掌が云ひたる如く止め元もとに歸れといふにあり汝の犯來し罪愆を痛悔し邪路を離れてキリストの十字架の道に就くべし其他に正當安全の道あることなし一刻猶豫すれを其だけ汝の往んと欲する所に遠かるなり一刻猶豫すれば其だけ汝の元に歸ることを困難ならしむるなり然らば直に止るべし今ならば尙立歸ることを得べし今日一時を過さば或は間に合はざるべし神の言に曰汝等惡途を離れて轉ずべし轉ずべし汝胡爲死んと欲する乎

明治廿一年十月十一日印刷
明治廿一年十月十二日出版

發行譯者

福島縣士族

井深梶之助

東京麻布區篁笥町
三番地寄留

印刷者 廣瀬安七

東京日本橋區兜町
壹番地製紙分社

田原 清 齋 家 方

齋 齋 齋 齋 齋

即命廿一年十月十二日出

即命廿一年十月一日出